

アーカイブス 通信

No. 20

新着図書

新着図書の中からおすすめをご紹介します。



東京の公園の歴史を歩く

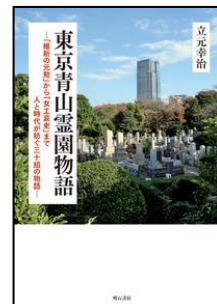
小野良平著／公益財団法人東京都公園協会 2016年11月発行

明治6年(1873)の太政官布達で公園が誕生してから約140年が経過しました。公園が出来るまでには震災や戦災、オリンピックなどの社会的背景や多くの人の努力による歴史があります。本書はこれまでのガイドブックにはない“歴史”という視点から東京の公園を紹介しています。これを片手に公園を歩けば、新たな魅力を発見できます。

東京青山霊園物語

立元幸治著／明石書房 2015年10月発行

青山霊園に眠る故人を時代やテーマごとに二人一組にし、両者の生涯を交差させながら、その時代の諸相やそれぞれの人物像について物語を進めていきます。渋谷のハチ公で有名な忠犬ハチ公と上野英三郎、維新の元勳・大久保利通とその盟友・西郷隆盛の妻いなど幕末から昭和を生きた総勢30組の物語が書かれています。



森を食べる植物—腐生植物の知られざる世界

塚谷裕一著／岩波書店 2016年5月発行

緑の葉を持たず、葉緑体をほとんど持たない腐生植物は、光合成の代わりに根に侵入してくる菌類(キノコやカビ)を自らの栄養源にして暮らします。森を構成する植物と菌類が安定的な関係にある場合に腐生植物はその姿を現します。“ギンリョウソウ”や“タヌキノシヨクダイ”など、妖しく美しい腐生植物の魅力を写真とともに余すところなく紹介した一冊です。

タンポポたいへん!

シャーロット・ミルトン作・絵 アーサー・ビナード訳／鈴木出版 2011年4月発行

モルモットがおかに住むモルモットたちは、タンポポの葉っぱが大好きです。朝から晩までタンポポを食べ続け、タンポポを手に入れることができなくなってしまいます。そんな中、モルモットのクリストファーくんは生き残ったタンポポを育て始めます。大好物が食べられなくなってしまう危機に直面した彼は「食べる」ことだけでなく、「育てる」ことの大切さを知ります。カラージュエラストで描かれた物語を楽しみながら、食について考えることのできる絵本です。



みどりの①プラザ展示 井の頭恩賜公園100周年記念 東京グリーンアーカイブスコレクション

右の絵葉書は大正10年(1920)に池尻(井の頭池東端の水門近く)の天然池につくられた水泳場の様子です。東京市営プールの第一号で、湧水を利用してため水温が低く、真夏でも水泳時間は日中の2~3時間と限られていました。昭和8年(1933)に弁天池南側に25mプールが新設され、この池尻の水泳場は廃止されました。絵葉書からも沢山の子供が集まり、人気の施設だった様子がわかります。このような貴重な資料をご覧いただける「井の頭恩賜公園開園100周年記念 東京グリーンアーカイブスコレクション」を、好評につき4月17日~5月6日までみどりの①プラザで再展示します。是非、お越しください。



参考資料:井の頭公園検定実行委員会
『いのけん井の頭公園検定公式問題解説集 改訂版』
(ぶんしん出版/2015年)

所蔵資料
「東京市井の頭公園水泳場」(絵葉書大正後半から昭和初期頃)

「江戸の花見」

平成29年2月23日(木)～平成29年4月22日(土)

私達にとって毎春の楽しみである花見の文化は奈良時代に始まったとされ、平安時代には貴族達が詩歌や管弦を伴い、豪華な宴が盛んに催されました。江戸時代に入り、庶民の楽しみとして変化し、桜の名所へ人々が着飾って大勢で繰出し、歌い騒いで花を愛でました。江戸では上野・飛鳥山・墨堤・品川御殿山などが桜の名所となり、全国各地に花見の名所が誕生しました。また、江戸時代には“染井吉野”を始め多くのサクラの品種が植木職人の手によって作り出されました。

今回みどりの図書館東京グリーンアーカイブスでは江戸の花見に関する資料を公開致します。ぜひご覧ください。

公開資料(一部)

・小金井桜花図説 第一輯(三好学/東京市役所)・桜品(写)(松岡玄達)・・・他15点程展示



岡山鳥『江戸名所花暦』(1799年)



小野佐和子『江戸の花見』(築地書館/1992年)

レファレンス事例

こんなご相談にも乗っています。お気軽におたずね下さい。

Q. 日比谷公園が出来た頃の写真はありますか。

A. 当館では明治36年(1903)の開園式の様子などの写真を数点所蔵しております。

右の写真は開園当初の雲形池「鶴の噴水」の様子です。木がまだ小さく、現在の木々の様子と随分違う事がわかります。開園当時は木陰が少なく、日射病になる人が多くいたため「攪乱(日射病)公園」と呼ばれていました。

紹介資料：開園当初の雲形池 鶴の噴水(日比谷公園/1903年)



公益財団法人 東京都公園協会

Q. 日比谷公園にメタセコイアは植えられていますか。

A. 草地広場中央に植えられています。メタセコイアは、現存する高木のなかでは1、2を争う樹高を持つ樹木です。また、生長がきわめてはやく、大きく育ち、公園などによく植えられています。日比谷公園のほか、水元公園や浮間公園、篠崎公園など、さまざまな公園でご覧いただけます。

紹介図書：日比谷公園樹木マップ(2009年調査)

相賀徹夫『園芸植物大事典4』(小学館/1989年)

『緑化に関する調査報告(その21)』(東京都建設局公園緑地部/1994年)



日比谷公園のメタセコイア(2017年3月24日撮影)



- 開館時間 : 9:00～17:00
- 休館日 : 日曜・祝日・年末年始(12月29日～1月3日)
- 複写 : 有料
- 資料検索 : インターネットからも検索可能

<http://www.tokyo-park.or.jp/college/archives/>
グリーンアーカイブス 検索

- データ貸出：図面・写真・絵はがき等の資料の画像データ貸出についての申請方法は図書館職員までお問合せください

〒100-0012 千代田区日比谷公園1-5緑と水の市民カレッジ2階
TEL.03-5532-1347

- ・東京メトロ丸の内線、千代田線、日比谷線「霞ヶ関」駅下車 徒歩3分
- ・都営地下鉄三田線「内幸町」駅下車 徒歩5分
- ・JR山手線「有楽町」駅下車 徒歩15分